



第2号：平成26年6月2日 琳派と御所 ——1 琳派誕生

「琳派」の誕生を元和元年(1615)と考えています。この年、大坂夏の陣が終わり、元和堰武といわれる平穏な時代が始まります。そして徳川家康から本阿弥光悦が鷹峯の所領を拝領しました。そこへ光悦を中心に本阿弥一族、「おかた宗伯、筆屋妙喜」など多くの町衆が集りました。その地図が遺されています。まさに光悦村の出現です。この村の出現を以て「琳派」誕生と考えます。何故なら、「おかた宗伯」は尾形光琳の祖父にあたる人です。これから考えてゆく「琳派」と深く関わり、「琳派四百年」と数える根拠となります。

この村に俵屋宗達の名が見られないのが残念です。宗達は謎が多く、その生没年も未だに不明です。しかし、後水尾天皇は宗達の描いた屏風が気に入って手許に残されていたことから、公家衆や町衆仲間にも良く知られていたと考えられます。

光悦は宗達より多くの人に知られていました。永禄元年(1558)生まれ、没年が寛永十四年(1637)ですから織田信長、豊臣秀吉、家康の実像を眼にしていました。本能寺の変、聚楽第の完成、関ヶ原の戦いそして征夷大將軍・家康の姿も見聞きしているのです。彼ら権力者の性格を熟知していた京の町衆として、御所と権力者たちとの関係についても敏感であったと考えられます。このような世相の下で「琳派」は誕生したのです。当時の様子に興味をお持ちの方は、辻邦生『嗟峨野名月記』をお読みください。琳派の原風景が浮き彫りされています。

写真は光悦村の面影を偲ばせる光悦寺から見た鷹峯と神坂雪佳が光悦寺の再興を祈願して造った厨子。そこには寺に伝えられてきた光悦像が納められています。

